

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00515

研究課題名(和文) 百一夜物語におけるミソジニーに隠されたミサンドリー

研究課題名(英文) Unveiling Misandry in the Shadow of Misogyny in the Hundred and One Nights

研究代表者

鷲見 朗子 (SUMI, Akiko)

京都ノートルダム女子大学・国際言語文化学部・教授

研究者番号：20340466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：千一夜物語と関係があるとされる百一夜物語の枠物語の中で、ミソジニー(女嫌い)に隠されたミサンドリー(男嫌い)の要素を明らかにすることを目的とした。この枠物語と、漢訳大藏經中の仏教物語及び千一夜物語の枠物語との関係性を精査した結果、ミソジニーは女性登場人物の夫に対する裏切り、そしてミサンドリーはそれを受けて女性に復讐する男性登場人物の残虐行為に見られた。仏教とイスラームの宗教的背景が物語解釈に影響を及ぼしたことが確認された。写本研究では、これまで所在がわからなかったルネ・バゼ所有の百一夜物語写本が、ライデン大学図書館所蔵の写本と同一であることを証明し、写本校訂と方法論を概ね確定することもできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では「男」に着目することで、ミソジニーの下に隠れたミサンドリーのテーマを浮き彫りにした。広く読まれている千一夜物語において、特に女性だけでなく男性のジェンダーの描かれ方を見直すことで、社会における男性への見下しというミサンドリックな側面への注意を促すことにつながる。写本研究では、これまで所在不明とされてきたルネ・バゼ所有の百一夜物語写本が、ライデン大学図書館所蔵の写本と同一であることを示した。ライデン大学所蔵写本は不完全(68夜まで)ではあるが、枠物語は完全に掲載されている。したがって、この研究成果は、写本の比較研究をはじめ、百一夜物語の形成過程の究明に学術的意義をもつといえる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to elucidate elements of misandry hidden within misogyny that permeates the frame story of the 101 Nights, which has been noted for its similarities to the 1001 Nights. By examining the relationships among this frame story, a Buddhist tale that bears a strong resemblance to the content, and the frame story of the 1001 Nights, it was found that misogyny was evident in the betrayal of husbands by female characters, while misandry was seen in the brutal acts of revenge by male characters towards women. Furthermore, it was confirmed that the religious backgrounds of Buddhism and Islam influenced the interpretation of these stories. In the manuscript study of the 101 Nights, it was proved that the manuscript of the 101 Nights owned by Rene Basset, which had been untraceable until now, is identical to the manuscript by the Leiden University library.

研究分野：アラブ文学

キーワード：アラビア語 写本 ジェンダー

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 百一夜物語と千一夜物語

「千一夜物語」(「アラビアンナイト」)と関係があると考えられる「百一夜物語」(Mi'at Laylah wa-Laylah)は、マグレブ地域で伝承されたアラビア語の物語集である。百一夜物語は、物語の構造において「千一夜物語」と類似している。両方の物語には、夜にシャハラザードが王に物語を語るという枠物語がある。前者では百一夜、後者では千一夜にわたって物語が語られる。一部の物語、例えば「七人の大臣」や「黒檀の馬」などは両方の物語に登場する。百一夜物語は、「千一夜物語」とは異なる物語集と見なされているが、似た概念に基づいて編纂されている。

(2) 百一夜物語、千一夜物語、仏教物語

百一夜物語は、千一夜物語と同様、テキスト本文に唯一神アッラーへの言及が頻繁にみられるなど極めてイスラーム色が強い。両物語の枠物語は、250年頃に著された漢訳大藏經の舊雜譬喻經における第16話(僧曾(280年没)中国語訳、以下「仏教物語」と呼ぶ)と共通のモチーフが見られる。イスラーム文化の中で形成されてきた百一夜物語と仏教物語との関連による論考は限られている。また、これまでの研究において、百一夜物語に関する議論は、千一夜物語との共通性が中心である。女の不貞、男の美への執着や妻の殺害というテーマに関して、イスラーム的思想と仏教的思想に基づく比較分析はほとんど認められない。百一夜物語におけるこれらのテーマが、イスラームと仏教という異なる宗教文化で育まれてきた経緯について、千一夜物語並びに仏教物語との比較を行う。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は、千一夜物語との類似で注目されてきた百一夜物語の枠物語の展開のなかで、ミソジニー(女嫌い)に隠されたミサンドリー(男嫌い)の要素を明らかにすることであった。百一夜物語については、複数の写本まで遡り、写本校訂と形態学的調査を行うことで、詳細な理解に努めた。また、この枠物語と、内容が酷似する漢訳大藏經中の物語及び千一夜物語の枠物語との関係性を精査し、仏教とイスラームの宗教的背景が物語解釈に及ぼす影響も解明することを目指した。

学術的価値は未だ研究されていない独自の目標にあった。それは、百一夜物語と千一夜物語における枠物語への新しい見解の提示、仏教物語を含めた宗教の影響の解明、それら物語における男性と女性への視点の新たな解釈、百一夜物語の複数の写本間の比較による詳細な分析であった。

3. 研究の方法

(1) 写本校訂

現在、百一夜物語の知られている写本は9つある。そのうち、6つの写本の所在が確認されている。そのうち3つはフランス国立図書館(Bibliothèque nationale de France, BnF)にある。その中で最も古い、確認された写本は、BnFの1776年のもの(アラビア語3662)である。2つの写本はチュニジア国立図書館にある。2010年にアガ・ハーン博物館が入手したものが一つある(513)。所在が確認されていない3つのうち1つはルネ・バセ(1855-1924)が所有していた。これがモーリス・ゴードフロワ・ドモンピヌ(1862-1957)が「百一夜物語」のフランス語訳で参照した写本であり、この写本がライデン大学図書館に登録されているもの(以下L/J)である可能性が高い。Lが元々バセの所有物であることを示した。

(2) 仏教物語との関係

仏教物語は、漢訳大藏經の舊雜譬喻經における第16話を用いている。百一夜物語の枠物語のテキストについては、1979年にチュニスで出版されたマフムード・タルシューナの版、『キターブ・ミアト・ライラ・ワ・ライラ』を使用した。千一夜物語の枠物語のテキストについては、話の筋が他の重要な版と類似しているカルカット第2版を用いた。

4. 研究成果

(1) 写本校訂

Lが元々ルネ・バセの所有物であることを証明した。これは、Lの特徴を説明し、ゴードフロワ・ドモンピヌの言及と比較することで行った。ウィトカムはLがバセの写本であると主張しているが、ゴードフロワ・ドモンピヌの提供する情報はやや矛盾している。そのため、この矛盾を解消し、Lがバセの写本であることを示した。さらに、Lの特徴を明らかにした。残存している6つの他の写本と百一夜物語の別の版と比較した。その際、物語の順序や千一夜物語にも登場する物語に焦点を当てた。枠物語におけるシャハラザードとその姉妹の役割、および中間アラビア語の特徴が特に調査された。Lの枠物語(プロローグ)のアラビア語テキストも提示した。結果として、現在認識されている写本の数が少ない(わずか6つ)百一夜物語のコレクションに新たに特定された写本が追加されることになった。この追加により、百一夜物語に興味を持つ学者たちは、より広範囲な特徴を持つ写本を研究し、含まれる物語、物語の順序、および物語の言葉遣いや内

容をより深く分析することができることになる。Lの物語は千一夜物語にも含まれており、これにより千一夜物語の研究にも貢献するであろう。例えば、「イラムと柱」「七人の大臣」「イブラーヒーム・イブン・アルマフディー」などの物語がLに含まれており、これらは千一夜物語にも含まれている。マルツォルフは、百一夜物語の「七人の大臣」を論じ、その物語の約半数が千一夜物語にも含まれていると指摘している。タルシューナは、百一夜物語の「七人の大臣」は千一夜物語のバージョンよりもイスラームの側面が少ないと述べている。したがって、Lの物語の詳細な検討は、千一夜物語に含まれる物語のさらなる例を明らかにし、両コレクションの間の関連性を明らかにするのに役立つであろう。

(2) 仏教物語および百一夜、千一夜物語の枠物語

西暦250年頃に著された漢訳大藏經の舊雜譬喻經における第16話、百一夜物語の枠物語、千一夜物語の枠物語には、そのモチーフに類似点と相違点が見られる。王の美に対する固執、女の不貞、王が妻の不実のために残忍な行状に手を染めることである。

これらの3つの物語は、話の筋の類似性から何らかの関係性をもっていると考えられている。たとえば、エマニュエル・コスカンは、千一夜物語の枠物語の最初の部分（「妻の不貞行為によって男性が悲しみを感ずる。その後、彼は上位階級の人物が同じ不幸に見舞われるのを目撃したことで喜びを取り戻す」）が、仏教の物語と強い類似性を持っていると指摘した。仏教の物語の内容は、実際には百一夜物語の枠物語に千一夜物語よりも近い。絶望から回復への主人公たちの道程を比較し再検討した。すべての物語で、男性主人公の絶望は女性の繰り返される不貞行為によって引き起こされる。これが彼の女性嫌悪につながる。彼が別の男性と出会うことへの執着は、これらの物語全体で共通している。一方で、主人公が回復へ導かれる方法は、仏教の物語と2つの夜の枠物語とは明確に異なる。仏教の物語では、最終的には女性との交わりを断つが、夜の枠物語では、破壊的な危機を解決した後結婚することで女性嫌悪を克服する。夜の枠物語は、主にイスラームまたはムスリムの地域で伝えられたと考えられている。これらの物語をそれぞれの宗教的文脈から見ると、各主人公がそれぞれの宗教的信念の規定された方法で回復を追求したと主張できる。

仏教の物語は、「舊雜譬喻經」と呼ばれるものに含まれている。「舊」は「古い」を意味し、「雜」はおそらく「さまざまな」を意味する。「譬喻」は、教えの意味や内容を明確にするために例や説明または譬喩を使うことを意味する。これには実話や創作物語の使用も含まれる。「經」は「聖典」や「宗教的教え」を意味する。したがって、「舊雜譬喻經」は、仏教の宗教的教えを説明するための物語集である。一方、「舊雜譬喻經」には多くの世俗的な物語も含まれている。したがって、この書物はまったくの宗教的な物語集であるとは言えないかもしれない。

百一夜物語と千一夜物語に関して、『アラビアンナイト百科事典』によれば、これらの物語の大部分はイスラームの環境で展開されている。ナービア・アボットによれば、アルフ・ライラの断片では冒頭に、「アッラー、最も慈悲深き、最も慈悲あまねきお方の御名にて」というアラビア語のフレーズがある。さらに千一夜物語のカルカッタ第2版には、アッラーと預言者ムハンマドを賛美する序文がある。同様に、百一夜物語にも多くの物語で、アッラーを讃えるフレーズが含まれている。

しかし、最近の研究では、キリスト教徒などの他の宗教の信者も千一夜物語の形成に貢献したことが示されている。フォークロアの物語をガランに語ったハンナ・ディアーブはキリスト教徒で、シリアのアレッポ出身であった。ガランはその物語を千一夜物語の版に追加した。ガランの原稿はキリスト教徒によって読まれ、広まった。さらに、イスラームの教えに合致しない物語や、明らかに世俗的な要素も千一夜物語には存在する。

さらに、設定の大部分がムスリムであることから、代表者はイスラームの観点からこれらの物語を解釈する新しいアプローチを模索し、「舊雜譬喻經」の物語の仏教的な観点と対比させつつ、一般的な文学的観点も取り入れて検討を行った。以下の5つの段階に分けて、考察を行った。a. 初期の状況：理想的な状態、b. 愛着/欲望、c. 絶望の原因：女嫌い（ミソジニー）、d. 危機：男が行う殺人（ミサンドリ）、e. 回復への道、である。主人公は、理想的な状態から何らかの原因で絶望の危機に陥り、最終的には回復へ到達するのである。ミソジニーは女性登場人物の夫に対する裏切り、そしてミサンドリーはそれを受けて女性に復讐する男性登場人物の残虐行為に見られると言える。

【主な参考文献】

A Hundred and One Nights, ed. and trans. Bruce Fudge, foreword by Robert Irwin. New York: New York University Press, 2016.

Al-Ḥajj al-Bahī al-Bunī, *Mi'at laylah wa laylah...wa hikāyat ukhrā*, ed., Shriḥat Aḥmad Shriḥat. Algiers: al-Maktabah al-waṭaniyyah al-jazā'iriyyah, 2005.

Hyakuichiya Monogatari: Mō hitotsu no Arabian Naito [The Hundred and One Nights: Another "Arabian Nights"], trans. Akiko Sumi with introduction. Tokyo: Kawade Shobō Shinsha, 2011.

Les Cent et une nuits, traduites de l'arabe. trans. Maurice Gaudefroy-Demombynes. Paris: Librairie Orientale & Américaine, 1911; Paris: Sindbad/Actes Sud, 1982.

Mi'at Laylah wa-Laylah, ed. Maḥmūd Ṭarshūnah. Tunis and Libya: al-Dār al 'Arabiyyah lil-Kitāb 1979; 2nd ed. Cologne: Manshūrāt al-Jamal, 2005; 3rd ed. Tunis: Al-Majma' al-Tānisī lil-'Ulūm wa-al-Ādāb wa-al-Funūn, al-Bayt al-Ḥikmah, 2013.

Cosquin, Emmanuel. "Le prologue-cadre des Mille et une nuits: Les légendes perses et le livre d'Esther." *Études Folkloriques*. Paris: Librairie Ancienne Honoré Champion, 1922.

Marzolph, Ulrich. "The Hundred and One Nights: A Recently Acquired Old Manuscript." *Treasures of the Aga Khan Museum Arts of the Book & Calligraphy*. Sabanci University Sakip Sabanci Museum, 2010), held in Istanbul, November 5, 2010-February 27, 2011.

Marzolph, Ulrich, and Aboubakr Chraïbi. "The *Hundred and One Nights*: A Recently Discovered Old Manuscript." *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft*, vol. 162, no. 2 (2012): 299-316.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Akiko Sumi	4. 巻 55-2
2. 論文標題 The Leiden Manuscript of the Hundred and One Nights	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Arabic Literature	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Akiko Sumi
2. 発表標題 From Despair to Recovery in a Chinese Buddhist Story and the Frame Story of The 101 Nights and The 1001 Nights
3. 学会等名 International Workshop on Arabic and Hebrew Folkloric Stories (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Akiko Sumi
2. 発表標題 A Comparative Study of Arabic Manuscripts of the One Hundred and One Nights: The Order of Tales and the Poetic Texts
3. 学会等名 Asian Federation of Middle Eastern Studies Associations / Korean Association of Middle East Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akiko Sumi
2. 発表標題 Arab Studies in Japan (presented in Arabic)
3. 学会等名 Seminar of Department of Arabic Language and Literature, King Saud University (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiko Sumi
2. 発表標題 Qadaya wa-tahaddiyat fi tarjamat kitab “Mi’at Laylah wa-Laylah” min al-lughah al-‘arabiyyah ila al-lughah al-yabaniyyah[『百一夜物語』のアラビア語から日本語への翻訳：問題点と挑戦]
3. 学会等名 キング・サウード大学アラビア語アラブ文学学科主催 第3回国際カンファレンス（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鷺見朗子
2. 発表標題 アラビアンナイトにおけるミソジニー（女嫌い）とミサンドリー（男嫌い）：百一夜物語の収録話「王子と七人の大臣の物語」
3. 学会等名 国立民族学博物館 現代中東地域研究レクチャーシリーズ 第27回レクチャー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akiko Sumi
2. 発表標題 Comparative Study of Arabic Manuscripts of the Frame Tale in the One Hundred and One Nights
3. 学会等名 International Symposium on Islam Civilization and Science, National University of Malaysia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Sumi
2. 発表標題 An Arabic Manuscript of the One Hundred and One Nights
3. 学会等名 The Second International Conference on Islamic Civilization (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鷺見朗子
2. 発表標題 千一夜物語の舞台としてのバグダッド
3. 学会等名 日本国際ボランティアセンター（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 International Workshop on Arabic and Hebrew Folkloric Stories	開催年 2022年～2023年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------